令和６年度（対象年度：令和５年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科(幼)
責任者（又は記入者）	石川　悟司

基準領域１	教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

〇事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記していますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

〈前年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
1	保育幼児教育コース（幼）では、幼稚園教諭資格の他に保育士資格など複数資格取得者がほとんどである。そのため、学生の関心が実習のための実践的な教育･保育技能に関心が集まり、自己の教師･保育者像が曖昧なままに過ごす学生がいる。
2	保育幼児教育コース（幼）では、機会に応じて保育部会で情報交換や議論を重ねているが、今後、機会を増やすことを検討する。
3	保育幼児教育コース（幼）では、ポータル上で学生が自己の学修成果及び自己評価をできるようにしているが､その利用率及び運用の効果をさらに高める必要がある。
4	教員養成サポートセンター所長は、教職課程の教員配置について教職課程認定基準を把握するよう努めているが、負担を軽減し人事委員会内での適時判断ができるよう、教職課程に関わる案件において人事委員会における教職事務担当者を位置づける必要がある。
5	各学科と全学組織の見地、全学的意思の統一をはかる難しさがある。
6	教員養成ＧＰ予算付与期間を過ぎて以降の予算管理及び設備管理･運用の組織的再配置を進める必要がある。
7	授業評価アンケートの担当部署から、結果提供を受けられるしくみをつくる必要がある。その上で、教職課程についてのＦＤ・ＳＤの取り組みにつなげることが必要である。
8	数値的な公表については年度更新を行っているが、全体的な情報について評価を受ける機会はこれまでなく、短大部との見せ方にも方針をたて統一性をもたせたい。

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
9	保育幼児教育コース（幼）では、教育実習や学生ボランティア等の業務においての教職課程課との連携は円滑に行われているが、教職支援対策課の学生利用が限定的である。また機会に応じて保育部会で情報交換や議論を重ねているが、今後、機会を増やすことを検討する。

〈前年度の評価結果（課題事項）〉

課題事項〈箇条書き〉　＊各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
・知識、技能に偏らない教師観の醸成 ・保育幼児教育コースと児童教育コースの連携を軸にした幼小の接続（架け橋プログラム）の理解促進

〈【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項〉

＊認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和６年度（対象年度：令和５年度）自己点検・評価シート　１

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科（幼）
責任者（又は記入者）	石川　悟司

基準領域１	教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

１　対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の４段階で記入してください。

判定の目安

Ⅳ：　基準に十分に適合している

Ⅲ：　基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。

Ⅱ：　部分的に適合していないため改善を要する。

Ⅰ：　基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価 現　状
１	教職課程教育の目的・目標を共有	①　教職課程の目的・目標を「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。	Ⅲ
２		②　育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。	Ⅲ
３		③　教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。	Ⅲ
４	教職課程に関する組織的工夫	①　教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。	Ⅲ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価 現　状
5	教職課程に関する組織的工夫	②　教職課程の運営に関して全学組織（教員養成サポートセンター等）と学部（学科）の教職課程担当者とで適切な役割分担を図っている。	Ⅲ
6		③　教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT 教育環境の適切な利用に関しても可能となっている。	Ⅲ
7		④　教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等）や SD（教職員の能力開発）の取り組みを展開している。	Ⅲ
8		⑤　教員養成の状況についての情報公表を行っている。	Ⅲ
9		⑥　全学組織（教員養成サポートセンター）と学部（学科）教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、この自己点検評価を通じて機能しつつある。	Ⅲ

自己点検・評価シート　２

２　自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） ＊先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
課題事項〈箇条書き〉　＊伸長すべき点、改善すべき点	

３　伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

〈伸長・改善の進捗状況〉

対象年度における取り組み ＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
・知識、技能に偏らない教師観の醸成（学生間の議論を活性化させ多様な考え方に触れる機会を多く作る） ・保育幼児教育コースと児童教育コースの連携を軸に、幼小の接続（架け橋プログラム）の理解促進を図る。

〈今年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	

４　根拠資料

項目 No.	根 拠 記号	

令和６年度（対象年度：令和５年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科(幼)
責任者（又は記入者）	石川　悟司

基準領域２	学生の確保・育成・キャリア支援

〇事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記していますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

〈前年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
10	大学全体として共通する「教師像」をメッセージとして出せているのか検討したい。
11	免許種や学科の特性を踏まえた「教師像」を担保するものであるか基準の評価の機会を定期的にもちたい。
12	各学科が設けている履修要件に照らして課程を運用しているが、適切な規模の履修学生となっているか、などは議論されていない。
13	「履修カルテ」により、学生は自らの教職への道のりを自己点検・評価することができるが、評価の基準であるその項目の内容の見直しやタイミングについて検討が必要である。
14	新入生オリエンテーションの教職課程ガイダンスの際に、「意向調査」を行うなどして早めに全体の希望を把握し、指導に結びつけることはできないか。対象者が把握できれば、働きかけも違ってくるのではないか。
15	教員採用試験対策として、教員採用試験の２次試験対策の体制を維持したまま、１次試験の実施体制を充実することで教員採用試験の合格率を上げるよう改善策をとりつつ点検を行っていく。
16	教員採用試験情報を、東北・関東地方の教育委員会からだけでなく外部機関からもより多く収集し在学生や卒業生に提供し、教員採用試験合格者の目標値を維持する。
17	法令等の理解を深めカリキュラム上の工夫を行う。
18	現職教員卒業生と教職志望の学生が直接交流できる機会を増やし、教員をめざす後輩たちの意識向上に役立てることができるように今後も継続していく。

〈前年度の評価結果（課題事項）〉

課題事項〈箇条書き〉　＊各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
・学生と現職教員との交流の強化 ・「目指す教師像」の明確化 ・キャリア（就職）支援の強化

〈【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項〉

＊認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和６年度（対象年度：令和５年度）自己点検・評価シート　１

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科（幼）
責任者（又は記入者）	石川　悟司

基準領域２	学生の確保・育成・キャリア支援

１　対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の４段階で記入してください。

判定の目安

Ⅳ：　基準に十分に適合している

Ⅲ：　基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。

Ⅱ：　部分的に適合していないため改善を要する。

Ⅰ：　基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価 現　状
10	教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成	①　当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。	Ⅲ
11		②　「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始、継続するための基準を設定している。	Ⅲ
12		③　「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。	Ⅲ
13		④　「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。	Ⅲ
14	教職へのキャリア支援	①　学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。	Ⅲ
15		②　学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。	Ⅳ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価 現　状
16	教職へのキャリア支援	③　教職に就くための各種情報を適切に提供している。	Ⅱ
17		④　教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。	Ⅲ
18		⑤　キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。	Ⅳ

自己点検・評価シート　2

２　自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） ＊先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
項目 No. 15 項目 No. 18	・現職教員（卒業生）を演習等への積極的な招聘 ・行政、近隣保育所、附属幼稚園を巻き込んだ研究会の実施
課題事項〈箇条書き〉　＊伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No. 16	・就職センターとの連携強化

３　伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

〈伸長・改善の進捗状況〉

対象年度における取り組み ＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
・附属幼稚園と様々な場面において連携を図り「養成（学生）」と「育成（現職）」の往還による実践の質の向上、キャリア支援に向けて取り組んできた。

〈今年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	
№15 №16 №17	・キャリア支援、就職サポートに関しては就職センターが主な所管となっているのだが、現実的な相談窓口は教員となっている。業務分担が不明確な点について連携を強化する必要がある。

４　根拠資料

項目 No.	根 拠 記号	

令和６年度（対象年度：令和５年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科(幼)
責任者（又は記入者）	石川　悟司

基準領域３	適切な教育課程カリキュラム

〇事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記していますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

〈前年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
19	保育幼児教育コース（幼）では、コロナ禍により学生同士の対面の話し合いや討論が制限されている。また、学生ボランティアもコロナ禍により充分に実施できない状況にある。
20	保育幼児教育コース（幼）では、幼稚園教諭と保育士資格を修得する学生が多いため、１・２年次に科目が集中しており、学生の負担軽減を検討する必要がある。
21	保育幼児教育コース（幼）では、領域の保育内容等において取り組んでいるが、シラバス上ではそれら一部の科目に留まっており、その他の科目でも確実に取り上げていくことも必要である。
22	保育幼児教育コース（幼）では、学生のＩＣＴ活用能力の範囲が主である。今後は幼児がＩＣＴ機器を活用できるための能力の養成が課題として挙げられる。
23	保育幼児教育コース（幼）では、アクティブラーニングが多く実践しているが、「深い学び」の評価方法に課題がある。
24	児童教育学科では、学生のシラバスの活用が低調であり、利用率を上げることに課題がある。
25	児童教育学科では、制度の課題は現時点で見当たらない。ただし保育幼児教育コース（幼）では、教育実習要件を充足できない学生が微増傾向にあるため、動向を注視する必要がある。
26	児童教育学科では、学生の多様な課題に対応するため、学科教員の協力体制を整えているが、より密接な連携が必要である。
27	児童教育学科では、コロナ禍により、多人数での学修機会の減少やグループ学習等の多様な授業形態の制限、幼稚園や保育所、小学校に出向く機会が減少したことで実践的指導力を高める学修が制限されている。

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
28	保育幼児教育コース（幼）では、コロナ禍により、保育ボランティア、幼児を大学に招いての実践保育等の学修機会が限定されている。
29	保育幼児教育コース（幼）では、学生の情報収集源が多様性や信頼性に欠けるネットに依存する傾向が強いため、情報を鵜呑みにせず、複数の情報源から検証する姿勢を求めていく必要がある。
30	-
31	協力校での実習受け入れ人数には限度があるため出身校での実習を行わざるを得ない状況となっているが、可能な限り多くの学生が協力校での実習を行えるよう、引き続き教育委員会や近隣学校及び幼稚園との連携を図っていく。

〈前年度の評価結果（課題事項）〉

課題事項〈箇条書き〉　＊各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
・幼稚園、保育所等との連携充実。 ・早期の学習指導。

〈【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項〉

＊認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和６年度（対象年度：令和５年度）自己点検・評価シート　１

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科（幼）
責任者（又は記入者）	石川　悟司

基準領域３	適切な教育課程カリキュラム

１　対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の４段階で記入してください。

判定の目安

Ⅳ：　基準に十分に適合している

Ⅲ：　基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。

Ⅱ：　部分的に適合していないため改善を要する。

Ⅰ：　基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価 現　状
19	教職課程カリキュラムの編成・実施	①　教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。	Ⅲ
20		②　学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。	Ⅲ
21		③　教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。	Ⅲ
22		④　今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。	Ⅱ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価 現　状
23	教職課程カリキュラムの編成・実施	⑤　アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。	Ⅳ
24		⑥　教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。	Ⅲ
25		⑦　教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。	Ⅱ
26		⑧　「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。	Ⅲ
27	実践的指導力育成と地域との連携	①　取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。	Ⅳ
28		②　様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。	Ⅲ
29		③　地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。	Ⅲ
30		④　大学ないし教員養成サポートセンター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。	Ⅳ
31		⑤　教員養成サポートセンター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。	Ⅳ

自己点検・評価シート　２

２　自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） ＊先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
項目 No.27	・コロナ感染症が５類となり、幼稚園、保育所等との連携も拡大し、理論と実践の往還させた学習が充実し始める。
項目 No.23 項目 No.30	・多様な人材（県教委指導主事、社協、現場保育者）を巻き込んだ議論（実践保育研究会）は学生の意欲向上に繋がっている。 ・グループワークを積極的に取り入れ、対話による課題の発見、解決する能力の育成を行っている。
課題事項〈箇条書き〉　＊伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No.22	・ICT 活用については教員により活動の差が生じている。
項目 No.25	・早期の学習指導
項目 No.26	・履修カルテ（教職実践演習）の活用について、学生の活用の意識が低い。シラバスと関連づけた、きめ細やかな指導が必要。

３　伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

〈伸長・改善の進捗状況〉

対象年度における取り組み ＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
・１、２年次での単位の取りこぼしにより実習要件を充足できない学生が数人いる。カリキュラム全体を見渡した指導を早期にかつ継続的に行う必要がある。

〈今年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	
No. 22	・教員間の ICT 活用に関する勉強会の実施。
No. 25	・１、２年次の単位の取りこぼしの要因のひとつとして、保育職、教職に向けた熱量の低下が考えられる。講義内容全般に渡って学生が意欲的に取り組むことができるような内容の検討を行う。
No. 26	・活用目的を明確にするために、教職実践演習ガイダンスを児童教育コース・保育幼児教育コース別立てに行う。

４　根拠資料

項目 No.	根拠記号	